

氏名	朴 香淑 (パク ヒャンスク)		
学位の種類	博士 (芸術)		
学位記番号	甲第8号		
学位授与日	平成17年3月23日		
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当		
論文題目	現代社会における児童画の役割 ー 児童画の影響及び現代社会の関連を考える		
審査委員	主査 教授	李 禹 煥	
	副査 教授	本 江 邦 夫	
	副査 教授	鶴 見 雅 夫	
	副査 元本学教授	馬 越 陽 子	

内 容 の 要 旨

ドナルド・エヴァンズは現実の切手とよく似た切手を描いていた。しかし、それは実際に使われるものではなく、非現実的なものである。彼はまわりを見ることなく、自分の生み出す世界により深く集中していた。その彼の狭い世界は、実はもっと広々としていて、現実の世界と繋がっていたかもしれない。とても繊細で美し過ぎて壊れやすいものこそ、自分を主張することはなくても、社会に強く発信するものがあるのかもしれない。

私は道を歩いている時、幼い頃に小学校の近くにあった屋台で食べた物の匂いを感じる事がたまにある。空間と時間を超えた異様な匂いを感じると、無性に幼い頃が恋しくなる。

人間はいくら大人になっても、自分が育った環境と違う状況にあっても、幼い時の記憶に現実を重ねて哀愁を感じる。

幼児期は吸収力がすさまじい時期である。記憶に残っていなくても、心にはしっかりと根付いているため、この時期に体験したことは一生に深く関わってくる。

人は文字を書く前から絵を描き始める。幼稚園でも、文字の練習よりはるかに多く造形活動に時間を費やしている。このように、人の原点とも言えるべき場所を占めるのが造形であり、それゆえ造形は、子どもとの間での大切なコミュニケーションの手段として活用できるのではないかと思うのである。私は絵を描いていると、時折壁にぶつかることがある。子どもの絵の素材になっているすべてのものが大人になると限られてくる。画廊や美術館で無数の作品に出会っても、心に響くものは少ない。本稿では、生き生きとした人間の原動力になっている児童画を通して、私が失ったもの、今

の社会に必要なもの、これから作家として認識しなければいけないものを考えていきたい。

まず、第1章では、私がなぜこの論文を書こうとしたかの動機になる部分、そして自分の作品に関連した児童画との関係について述べ、そのなかでピカソが残した言葉、子供のように絵を描きたいという有名な言葉が意味するものは何かについて言及している。また、なぜ私がこの論文を書こうとしたかの動機になる部分と、自分の作品に関連した児童画との関係について考えてみたいと思う。

さらに、子どもが描く絵についても調べてみた。子どもが発達していく上で、ものとしてのおたまじゃくしはどのようなものなのか。芸術作品としての子どもの絵や、子どもの絵の表現はどのようであるのか。そして子どもの絵に強く影響を受けているジャン・デュビュッフェの初期作品と児童画の役割を考察してみた。

第2章では、アウトサイダー・アートについて触れる。未だにあまり研究されていないが、ジャン・デュビュッフェの活動によってアウトサイダー・アートの面白さが分かってきた。そこから、美術を分類する概念のあいまいさ、子どもの絵とアウトサイダー・アートについても言及することとする。

第3章では、児童画から影響を受けていることで有名なクレー、ピカソ、ミロ。彼らが受けた、その影響について考えてみた。その中でも、パウル・クレーと児童画、ピカソと児童画、ミロと児童画という例を挙げて考察してみた。

第4章では、発達心理学、幼い時の記憶が与える力について考え、子どもの発達について探ってみた。さらに、幼児期の重要性についても語る。

第5章では、韓国と日本の作家の児童画的要素(イ・ジュンソプ：李仲燮、ジャン・ウクジン：張旭鎭、パク・スグン：朴壽根の児童画との関係及び難波田史男、古賀春江の例)を探してみた。韓国で活躍した作家の紹介と児童画との関わり、そして日本で活躍した作家の紹介と児童画との関わりを比較検証してみることにした。

第6章では、実際の幼稚園児の作品例、実際の小学生の作品例、インタビューを通じて実際に児童画の作品に触れてみた。

第7章では、癒しを求めている現代社会人について考えることとする。美術がどのくらい社会と関わっているか、社会的な面では美術はあまり研究されていないが、最近大学の中にも 芸術社会学という専攻ができるくらい、これからの社会では重要な学問であると思う。芸術の社会との関わり、芸術と社会について、美術が精神的に安定感や治療に役立つ理由、美術治療師の話を述べる。

第8章では、最も日本的とも言える漫画との関連で日本現代美術の漫画、児童画、絵本の要素(奈良美智、村上隆について)などを考えながら、児童画のことを考えてみた。

以上を通じて第9章では、私の作品例、今後の自分の作品の行方を模索してみた。

最後に第10章では、まとめとして、児童画の重要性と社会との関わりについて、一考察を加えてみたいと思うのである。